

大阪府環境審議会 第2回「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画推進検討部会
議事録

第2回部会の審議内容として、第1回部会における主な内容やご意見・質問に関して、本計画の見直し内容やその対応について説明を行った。

民間ネット調査のアンケート結果を用いての市民満足度の取り扱いに関して、現計画にある5つの指標値を用いる評価方法及びその関連性について説明を行った。

本計画の指標値のうち、未設定となっていた指標値の設定と、本計画に基づくこれまでの取組みにより目標値が達成済みである数値に関して、2030年度の目標値の変更について説明を行った。

民間ネット調査のアンケート内容に関して、質問内容や選択肢の変更等について説明を行った。

本計画の進捗状況について、令和6年度の取組み実績及び令和7年度の取組み内容について説明を行った。

事務局の説明について、概ね了承できるが、次のとおり質問、意見等があった。

○民間ネット調査のアンケート結果を用いての市民満足度の取り扱いについて

貫上部会長：資料9ページの指標2「水辺施設を利用した市民の割合」と指標3「イベントや河川クルーズなどを通して水辺空間を楽しむ人の数」について、「ネット調査において満足度を算出するために使用していた項目」の関連性は、両方とも③水辺空間に対する「親しみやすさ」と④水辺空間で開催されるイベント等での「にぎわいの楽しさ」とのことであるが、評価としては合算するのか。

事務局：ご指摘の指標は、現計画にある指標を用いており、これまでのとおりそれぞれの指標で達成状況を確認したいと考えている。

なお、今回の見直しにおいて、これまでの市民満足度を評価していた民間ネット調査のアンケートの母数を増やすことを目的に、指標⑤「各種イベント時等における水環境に関する意識調査結果の割合」を新たに設定し、指標の達成状況を把握したいと考えている。

貫上部会長：了解した。

今回設定する評価する指標1～5と「ネット調査において満足度を算出するために使用していた項目①～④」を線で結ぶイメージで良いか。

事務局：そのイメージである。

中谷専門委員：資料9ページの「評価する指標」と「ネット調査において満足度を算出するために使用していた項目」について、その関連性を記載することで、指標1「きれいな水質の指標となる魚種の市内河川での確認地点数」と市民満足度がつながっている

ることがわかるので了解した。

藤田委員：市民満足度について、海洋プラスチックごみの削減に向けて、市民が水辺施設に行くことで行動変容を促すうえで、市民に理解していただくことが大切であることから啓発を進めて行くとともに、評価のための意識調査も行ってほしい。

事務局：承知した。

島田専門委員：資料9ページの「評価する指標」と「ネット調査において満足度を算出するために使用していた項目」について、関連性によりわかり易くなっているのが良い。

○未設定となっていた指標値の設定と達成済みの指標値の変更について

貫上部会長：資料10～12ページの水環境に関連するイベントの回数や人数について、質の向上をどのように判断するのかは、非常に難しいと考える。

事務局：人の質的な観点として、新たに水環境とは異なるイベント等において、啓発内容を見直したうえで、啓発を実施すること等で、より効果的なものにしたいと考えている。

貫上部会長：「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」はどこまで市民等に認知されているのか。

事務局：2019年のG20から時間が経っており、認知している市民は少ない可能性がある。

貫上部会長：海洋プラスチックごみは、河川を通じて流入している量が多いということも市民に知られていないと考える。質の向上は難しいと考えるので、まずは第一段階として市民への周知をしっかりと行っていくことが大切である。

また、渡船については大阪市文化として乗ってもらったら良いと思うが、現利用者が不便になることや、安全な運航ができなくなることは避けるべきであるため、紹介しないことは了解した。

貫上部会長：資料13、14の海外への情報発信や事業展開の機会を創出した件数や、資料15、16ページの海洋プラスチックごみの削減等に関わるステークホルダー間の連携を創出した件数のこれまでの事例については、わかり易くなっており、計画に掲載するよう進めてほしい。

事務局：承知した。

中谷専門委員：資料12ページの未設定となっていた指標値「クルーズ船と水環境イベントの参加人数」については、2024年度の利用者数「140万人を維持」という考えで良い。

また、水環境に関連していない大阪市が開催するイベントの人数について、人数を確保することは難しいと思うが、どの程度の人数を見込んでいるのか。

事務局：例えば、区民まつりについては、人数が多いところでは1万人が参加されている実績がある。当局側の体制もあるので全区での実施は難しいが、ある程度のイベント参加者に対して啓発することは可能と考えている。

中谷専門委員：人数の把握は困難とは思いますが、区役所のロビーに啓発パネルを展示すること

により、たくさんの人に見てもらふことは大切である。

事務局：展示については人数の把握は困難であるが、まずは知ってもらえるように啓発していく。

中谷専門委員：その取り組みの方向性で良いと考える。

また、渡船の件については理解した。

中谷専門委員：資料 13、14 の海外への情報発信や事業展開の機会を創出した件数や、資料 15、16 ページの海洋プラスチックごみの削減等に関わるステークホルダー間の連携を創出した件数の事例については、この内容で進めて良い。

事務局：承知した。

藤田委員：資料 12 ページの未設定となっていた指標値「クルーズ船と水環境イベントの参加人数」については、2024 年度の利用者数「140 万人を維持」という考えで良い。また、渡船について、天保山渡船場の利用者は少ないと聞いているが、その他は利用されている方が多いと認識しており、対応については理解できるので了解した。

藤田委員：資料 13、14 ページの海外への情報発信や事業展開の機会を創出した件数や、資料 15、16 ページの海洋プラスチックごみの削減等に関わるステークホルダー間の連携を創出した件数の事例については、この内容で進めて良い。

事務局：承知した。

島田専門委員：資料 11、12 ページの未設定となっていた指標値「クルーズ船と水環境イベントの参加人数」については、2024 年度の利用者数「140 万人を維持」という考えで良い。

また、「横ばい」とか「頭打ちの状態」とか書いているが、「横ばい」と書くと、まだ増える見込みがあるのに増えていないと感じる。クルーズ船の保有、施設状況、利用者のニーズからの容量の問題であって、「頭打ち」と書くとまだ努力できる余地があるように思われる。誤解を招かないよう、船の保有状況などから現状の受入れ可能な人数の限度近くに至っており、飽和状態であるとか、受け入れ許容の限度に達しているとか、原因を明確に記載してはどうか。

事務局：ご指摘を踏まえ、修正する。

島田専門委員：資料 13、14 の海外への情報発信や事業展開の機会を創出した件数の事例については、非常にわかり易くなっており、成果がありそうなものをもっとアピールしたらよいと思う。

事務局：承知した。

島田専門委員：15 ページ・16 ページの海洋プラスチックごみの削減等に関わるステークホルダー間の連携を創出した件数について、どことどこが連携しているかを記載することで、取り組みみたいと思っている企業・団体へのアピールになるので良いと思う。また、「ステークホルダー」については、日本語としては利害関係者ではあるが、説明にあたっては「構築した企業・団体によるグループ」などの言い換えをした方がわ

かり易いと思う。

事務局：ご指摘を踏まえ修正する。

○民間ネット調査のアンケート内容の変更について

貫上部会長：水辺施設について、名称だけではわかりにくいので工夫が必要ではないか。

事務局：アンケートに、水辺施設の概要がわかるようにリンクを貼り参照できるように工夫している。

貫上部会長：了解した。

中谷専門委員：民間ネットのアンケートの自由記述について、書く人は少ないと思うので、事例などを記載し、回答しやすいようにするなどの工夫が必要と考える。

事務局：ご指摘を踏まえ修正する。

藤田委員：ネット調査アンケートについて、回答の選択肢は5件法（5段階評価）で設定しているが、「親しみやすさ」の選択肢の「少し親しみやすい」は違和感がある。他のアンケート調査を参考に、選択肢全体を見直した方がよい。

事務局：選択肢については修正する。

藤田委員：ネット調査アンケートの大問4について、これまで各施設を個別に聞いており、今後も個別に聞く必要はないのか。アンケート結果の活用を考慮して検討してほしい。

事務局：各施設を個別に聞くように修正する。

藤田委員：ネット調査アンケートとイベント参加者のアンケート内容は回答するときの状況が異なるため、全て同じにする必要はないと考える。

事務局：承知した。

藤田委員：水環境イベントの参加者は社会課題の意識が高くポジティブな結果が想定されるので母集団に含めるかは検討が必要である。

事務局：ご指摘のとおり市民満足度の指標を評価する母集団には加えないように留意する。

島田専門委員：ネット調査アンケートに関して、問1「大阪市の水環境の状況に関する次の項目について、あなたはどの程度満足していますか」ではなく、「どう感じていますか」にし、市民の認識を調べたということで良いのではないか。

事務局：ご指摘を踏まえ修正する。

島田専門委員：同アンケートの問4について、「次の水辺の施設・空間を知っているか」に変更しているが、質問するのであれば、知っている施設・空間があると回答した人に対して、利用したことがある施設・空間についても聞いた方がよいと考える。

事務局：ご指摘を踏まえ修正する。

島田専門委員：講座アンケートの子どもの結果を見ると、河川について「きたない」とか、川にいる生き物の種類について「少ない」とか、プラスチックごみを減らそうと「思わなかった」と回答しており、子どもは正直に答えていると感じた。

島田専門委員：プラスチックの分別やポイ捨てをしないことが海洋のマイクロプラスチックを減らすこととつながっているということを理解していない大人は多いと思われる。プラスチックごみ減らすためには、市民自身もごみを捨てない、ごみを回収する必要があるということを理解してもらうことが重要である。

島田専門委員：大阪市内の川がきれいになったことについて、講座などで、大阪市が努力していることも伝えていただきたい。過去には河川の水質が全国のワースト5に入ったことがある淀川や大和川が、市民の努力とあわせて、大阪市の対策や規制のおかげで、河川がきれいになっていることをぜひアピールしていただきたい。

島田専門委員：イベント用アンケートについても、ネット調査アンケートと同じように、利用したことがある水辺の施設・空間も答えてもらってはいかがか。

事務局：イベントで実施するアンケートは、ネット調査とは異なり、現地でアンケートの回答を記載いただくため、回答時間を短くできるよう A4 片面サイズにしたいと考えている。

島田専門委員：イベント用アンケートでは知っている水辺の施設・空間を記載し、○囲いで選択してもらい、ネット調査では利用の有無を聞いてはいかがか。

事務局：ご指摘を踏まえ修正する。

島田専門委員：子ども用のイベント用アンケートについて、問3で、「水辺空間」とか、「親しみやすさ」があるが、子どもにはイメージが付きにくいと考える。例えば、水辺空間とは書かずに「川や海にある公園」などとし、選択肢は「よく行っている」、「行ったことがある」、「行ってみたい」、「知っている」で答え方を検討してはいかがか。また、問4も同様で、「にぎわっている」ということは子どもにとって答えにくい。例えば、問3で「よく行っている」とか「行ったことがある」と回答した子どもに対して、問4の「楽しかった」ということを聞いてはみてはいかがか。

事務局：ご指摘を踏まえ、アンケートの選択肢を修正する。

○その他について

事務局：第1回部会でご説明した有機フッ素化合物（PFOS・PFOA）について、改めて取組みの妥当性について確認したい。前回資料において、公共水域は2年に1回の測定、地下水は全市的な状況把握を行いつつ、超過が確認された地点の継続調査を重視していく方向で進めていきたいと考えるがいかがか。なお、東淀川区の高濃度の地点については毎年調査を行っていく予定である。

貫上部会長：有機フッ素化合物の取り組みとして、飲用がないのであれば、リスク管理の観点から継続調査を重視していくことは妥当と考える。

事務局：承知した。

中谷専門委員：地下水については飲用がないのであれば、現状把握で良いと考える。

また、河川、特に飲み水となっている淀川ではPFOS・PFOAの合計値は指針値を超過

しているのか。

事務局：淀川では超過していない。河川では、これまでに寝屋川や神崎川が指針値を超過している。

中谷専門委員：了解した。

藤田委員：超過している地点の継続的な調査は必要であるので、検討している内容で調査することは良いと考える。

島田専門委員：有機フッ素化合物の取り組みについては、ご説明のとおり集中的に継続調査の実施することは良いと思う。

東淀川区は隣の摂津市に工場があり、その因果関係を確認する必要があるが、既にPFOS・PFOAは製造に使用禁止されており、新しく出てくるものではないことから、発生源は限られている。PFOS・PFOAは数十年の期間地下水に残るものであり、直ぐになくなることはない物質である。国が全国的に調査したことから話題となっており、どこかで具体的な健康被害が生じている状況ではないと認識している。

事務局：承知した。今後、継続調査を中心に実施していく。

貫上部会長：今年度から実施しているプラスチック資源の一括収集の取り組みについて、ごみの分別は市民の意識を変えていくことが重要である。この取り組みが海洋プラスチックごみの削減にもつながっていることが分かるように計画に大きく取りあげた形で掲載してほしい。

事務局：承知した。

貫上部会長：一般社団法人産業環境管理協会において、資源・エネルギー使用の削減、廃棄物の発生・排出の抑制（リデュース）、使用済み物品の再使用（リユース）、再生資源の有効利用（リサイクル）等、資源循環の更なる普及、又は循環経済への移行に寄与する、先進的で高度な技術・製品開発、並びに社会システム・ビジネスモデルの構築等の事業や取り組みを公募・表彰している。実証段階のものを含めて表彰することで後押しすることにもなっており、更なるプラスチック製品の分別排出を進めて行く方向であり、検討してみたいかがか。

事務局：大阪市においても環境表彰制度があり、プラスチック関係も含めて表彰している。

藤田委員：万博のリユース食器などの取り組み結果について、計画への掲載が間に合わないことは了解した。

計画に掲載する万博の成果等について、大阪府や市において会場内外で行った取り組みがたくさんあったと思うのでその内容もコラムに掲載した方が良い。また、プラスチックごみの削減にはプラスチックの使用を減らすことはもちろんのこと、アップサイクルの取り組みも重要であり、その内容も計画に掲載してみたいかがか。

事務局：府市での取り組みについて掲載するよう調整する。

以上